

しんにほんごの きそ 新日语基础教程 2

教师用书



財団法人海外技術者研修協会 編著



外语教学与研究出版社

36
031-2

418020

しんにほんごのきそ 2

新日语基础教程 2

教师用书

财団法人 海外技术者研修协会 编著



外语教学与研究出版社

(京)新登字 155 号

京权图字 01-98-1642

图书在版编目(CIP)数据

新日语基础教程(2)教师用书/(日)财团法人海外技术者研修协会编著. - 北京:外语教学与研究出版社, 1998.8

ISBN 7-5600-1487-9

I. 新… II. 财… III. 日语-教学参考资料 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(98)第 20988 号

新日本語の基礎 2 (教師用指導書)

3A Corporation

Shoei Bldg., 6-3, Sarugaku-cho 2-chome, Chiyoda-ku, Tokyo 101, Japan

© 1994 by the Association for Overseas Technical Scholarship (AOTS)

All rights reserved. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise, without the prior permission of the copyright owner.

First published in Japan by 3A Corporation 1994

只限在中华人民共和国境内销售 不供出口

本书封面贴有 AOTS 的防伪标签,无标签者为盗版,不得销售

新日语基础教程 2

教师用书

财团法人 海外技术者研修协会 编著

* * *

外语教学与研究出版社出版发行

(北京西三环北路 19 号)

北京外国语大学印刷厂印刷

新华书店总店北京发行所经销

开本 787×1092 1/16 12.5 印张

1998 年 9 月第 1 版 1999 年 1 月第 2 次印刷

印数: 5001—15000 册

* * *

ISBN 7-5600-1487-9

G·630

定价: 13.90 元

は じ め に

この本は『新日本語の基礎Ⅱ』の教師用指導書です。財団法人海外技術者研修協会で日本語教育に携わる者の利用に供すると共に、『新日本語の基礎Ⅱ』を使って日本語を教えられている方々の指導の参考にしていただくために作成しました。

『新日本語の基礎Ⅰ・Ⅱ』は技術習得を目的に来日した研修生のために、当協会が作成した初級日本語教科書です。Ⅰは初級前半、Ⅱは初級後半レベルで学習時間は共に約100時間となっています。母語の異なる学習者を対象とするため、授業では教師はできるだけ媒介語を使わずに、日本語を話す・聞く能力を高めることを中心に指導しています。指導にあたっては、各種の視聴覚教材や教育機器を活用し、また、学習者のためには各国語訳、文法解説書を用意し、効率よく学習成果をあげる工夫をしています。この教師用指導書はこのような事情を背景としてまとめたものです。

『新日本語の基礎Ⅰ』では助詞や疑問詞の用法、動詞・形容詞の活用など基礎的文法知識を学ばせ、初歩的な日常会話ができることを目標としていますが、『新日本語の基礎Ⅱ』では文法学習を更に拡充し、場面や状況、人間関係を考慮しながら適切な日本語を用いて日常会話ができることを目標としています。従って語彙の面でも具体的な生活語彙だけでなく、抽象的な語彙の学習段階へと広がりを見せています。

このため『新日本語の基礎Ⅱ』を教える段階では、何を、どこまで、どのように教えたらいいか、経験のある教師でも迷うところです。一方この段階での学習は、中級レベルの学習に円滑につなげる上で重要な役割を担っています。

そこでこの本では、その課の学習項目の意味・用法の範囲と文法的な解説をすると共に、具体的な導入例を挙げました。更に指導にあたっての留意点などをまとめました。この他、クラスレベルに応じて学習内容を発展させるための参考例も挙げました。

この本が『新日本語の基礎Ⅱ』をもとに授業内容、方法を工夫、研究されている方々の一助になれば幸いです。

最後に、今後とも関係者のご助言、ご指導をいただきながら、よりよい授業を行うための努力を続けていきたいと思っております。

1994年6月

財団法人 海外技術者研修協会

目 次

	ページ		ページ
はじめに		第32課	53
本書の利用の手引き	1	～た／ないほうがいいです	
第26課	5	～でしょう	
～んです		～かもしれません	
～んですが、		第33課	60
～てくださいませんか		命令形	
～たらいいですか		禁止形	
第27課	13	～てくれ	
～が可能動詞		～と言っていました	
まだ～ません		第34課	70
～しか～ません		～とおりに	
～は～、～は～		～あとで	
見えます、聞こえます		～て／ないで	
できます		～ないで	
第28課	22	第35課	77
～ながら		～ば	
～ています（習慣的動作）		～ければ	
～し		～なら	
第29課	30	第36課	84
～が～ています（結果の状態）		～ように	
～は～ています		～ようになりました	
～てしまいました		～ようにしてください	
第30課	36	第37課	92
～が～てあります		～は～に～（ら）れます	
～は～に～てあります		～は～に～を～（ら）れます	
～ておきます		非情の受身	
第31課	44	第38課	98
～（よ）う		～のは～です	
～（よ）うと思っています		～のが～です	
まだ～ていません		～のを忘れました／知っています	
～つもりです			
～予定です			

第39課..... 105

～て
～くて
～で
～ので

第40課..... 112

疑問詞～か、～
～かどうか、～
～てみます

第41課..... 119

～を { いただきます
 くださいます
 やります
～て { いただきます
 くださいます
 やります
～ていただけませんか

第42課..... 127

～ために (目的)
～ (の) に

第43課..... 133

～そうです (様態)
～て来ます

第44課..... 139

～すぎます
～やすい／にくいです
～く／にします

第45課..... 146

～場合は
～のに (逆説)

第46課..... 152

～ところです
～ばかりです

第47課..... 158

～そうです (伝聞)
～ようです

第48課..... 164

～は～を～ (さ) せます
～は～に～を～ (さ) せます
～ (さ) せていただけませんか

第49課..... 172

尊敬語
～ (ら) れます
お～になります
特別な尊敬動詞

第50課..... 180

謙譲語
お／ご～します
特別な謙譲動詞

学習者にとって

まぎらわしい表現・文型..... 188

索引..... 189

本書の利用の手引き

この本の各課は「指導項目」「指導項目解説」「会話」の三つに大きく分かります。各々の項目の構成と内容は以下の通りです。

I 指導項目

その課で指導すべき主な学習項目を教科書の提出順に並べ、それらが教科書のどこで扱われているかを表にまとめたものです。表中、文は文型、例は例文、A、B、Cはそれぞれ練習A、練習B、練習Cを示し、横に辿れば学習項目の練習の流れがつかめるようになっています。

II 指導項目解説

課の構成が一つの大きな文法項目でまとまっている場合（第26課「～んです」、第27課「可能表現」、第37課「受身」、第41課「授受」、第49課「尊敬」、第50課「謙譲」など）は、はじめにその課の内容を総括的に解説しました。

[指導内容]

指導項目に挙げた文型の中には複数の意味、用法を持つものがあります。その中から初級のこの段階で取り上げる範囲を設定しました。従ってここでは指導項目の文型が持つ意味を網羅的に解説することは避け、その課で指導すべき意味・用法の範囲とそれに対する文法的な解説をするにとどめました。

[導入例]

学習者がそれまでに身につけた日本語能力、文法的知識を土台に、この課の学習内容を理解させるための導入例を具体的に紹介しました。その際、その表現が使われる場面や状況、人間関係などの理解に役立つ絵を多く掲載しました。

また、工夫が必要な板書に限って、その例を示したほか、文型の定着のための基礎的な練習方法や順序についても例示しました。

導入の方法は一定のものでなく、学習者のさまざまな背景や関心、その時々トピックなどを考慮する必要があります。これらの導入例を参考に各自創意工夫されることを望みます。

[指導留意点]

教育現場での経験を基に、よりよい授業の進め方、学習者の陥りやすい誤り、学習者から質問の出やすい点など、教える際に留意すべき点を挙げました。また、類似表現との違いやその課で扱わない意味・用法についての補足をしました。

★発展指導

指導項目に挙げた日本語の表現意図が理解でき、かつ練習A・B・Cのような文の形の定着を重視した練習がきちんとできるようになったら、それまでに身につけた日本語力を使い、より発展した練習をさせることが望めます。ここではそのヒントを紹介し、発展学習を工夫する際の参考としました。これらの中には授業内で短時間でできるものもあれば、宿題に課したり、復習時間に充てたほうがよいものもあります。また、教室内だけでなく、教室外の活動をさせるものもあります。何を、いつ、どのように授業に取り入れて行うかは、クラスの授業進度、学習者の能力に照らして、教師が判断する必要があります。

Ⅲ 会 話

[指導目標]

その会話を学習したら、何ができるようになるか、その会話学習で目指す到達目標を示しました。

[場 面]

その会話の場面、状況などを簡潔に要約しました。

[指導項目]

その会話の中で教えるべき学習項目の解説と留意点を簡単にまとめました。

★発展指導

教科書の会話の内容がよく理解でき、きちんと発話できるようになったら、それを発展させる練習をすることが望めます。

会話で学習した談話の流れを応用し、類似した場面、状況での発話練習をしたり、関連する話題についての言語活動をさせたりする例を参考として挙げました。

どのような方法で会話の内容を発展させて指導するかは、クラスのレベル、個々

の学習者の能力を考慮して、教師が判断する必要があります。

なお、『新日本語の基礎Ⅱ』を用いて日本語を指導するにあたっては、教科書の内容に準拠したカセットテープ、会話ビデオ、絵教材などが用意されています。

この本では〔会話〕の導入の仕方については触れませんでした。が、当協会では会話ビデオを導入に利用して、その課の終わりに会話を学習させることにしています。

最後に、『新日本語の基礎Ⅱ』（全25課）の構成、内容（文型、例文、会話、練習、問題、復習、まとめ）及びその使い方については、教科書の凡例を参照していただきたいと思います。

第 26 課

I 指導項目

1. ～んです	文 1	例 1・2・3	A 1・2・3・4	B 1・2・3	C 1・2
2. ～んですが、 ～てくさいませんか	文 2	例 4	A 5	B 4	C 3
3. ～たらいいいですか		例 5	A 6	B 5	C 4

II 指導項目解説

『新日本語の基礎 I』（以下『新基礎 I』とする）では「デパートへ行きます」「頭が痛いです」のように客観的な事実を述べる言い方を中心に学習した。この課では話し言葉でよく用いられる「～んです」の意味と用法を教える。「どこへ行くんですか」「頭が痛いんです」のように「～んです」を用いると、相手に説明を要求したり、事情や理由を説明したりするニュアンスが付加されることを理解させる。

また「～んですが」の状況説明を前置きに用いた丁寧な依頼の表現「～てくさいませんか」と、助言や指示を求める表現「～たらいいいですか」を関連的に教える。

1. かぜをひいたんです

[指導内容]

「～んです」の用法にはいろいろあるが、この課では以下の用法を中心に教える。

- ① 話し手が相手の何かに注目して興味や関心を向けた場合や、驚き、不審などの感情を抱いたときに用いられる。（例文 1）
- ② 目前の事実として表れている事柄の背後にある原因、理由やそうなるに至った事情などを問うのに用いられる。この場合、多くは理由を尋ねる疑問詞「どうして」や事態の説明を求める「どうした」などとともによく用いられる。
またこのような質問に対し、理由を説明するのに用いられる。（例文 2）
- ③ 話し手が今述べたことに対して、そのような発言をした理由、説明を補足するのに用いられる。（例文 3）

[導入例]

①の導入

T 「リーさんは夜遅く出かけます。

受付の人はこれを見て、こう聞きます。

『どこへ行くんですか。』」（不審そうな表情と声で）

T （リーさんの役になって、何でもないといった顔で）

「ちょっとたばこを買いに行きます。」

リーさんのいつもとは違った行動を不審に思っ、て、「～んです」を用いて、その訳を求めようとしたことを説明する。



学習者の持ち物に関心を示して質問する。

T 「いい時計ですね。どこで買ったんですか。」

S 「新宿で買いました。」

T 「そうですか。わたしもこんな時計が欲しいです。」

そんないい時計をどこで買ったのか聞きたくて、質問に「～んです」を用いたことを理解させる。



T 「日本語が上手ですね。どのくらい勉強したんですか。」

S 「3 か月勉強しました。」

T 「そうですか。日本へ何の勉強に来たんですか。」

S 「電気の勉強に来ました。」

このように「～んです」は相手に説明を聞きたいときによく使われることを説明する。

「～んです」は「普通形」に「んです」を付けて作ること、形は普通形を用いるが、「～んです」と「です」で終わることからわかるように、丁寧な話し言葉であることを理解させる。

[板書]

どこへ	行く	んですか。
どのくらい	勉強した	

[普通形] + んです

このあと、実際にその形が言えるように動詞の語彙単位の変換練習をする。形がスムーズに言えるようになったら、「いつ日本へ来ましたか→いつ日本へ来たんですか。」のように疑問詞を用いた疑問文を「～んです」体に変換する練習を行う。そのあと「いい時計ですね。どこで買いましたか→いい時計ですね。どこで買ったんですか。」のような文の変換を行う。

このあとQ Aの練習をするが、その際、単に事実を答える場合は「～んです」を用いて答えないように指導する。

②の導入

T「リーさんはいつもたくさんごはんを食べます。

でもきょうはあまり食べません。おかしいです。リーさんに何と聞きますか。」から

S「どうしてごはんを食べないんですか。」

T「リーさんは何と言いますか。」

S「おなかが痛いです。」は×。



この場合は食べない理由を説明するために「～んです」を用いることを説明する。

S「おなかが痛いんです。」が出ればよい。

また次に魚を食べない人に

T「どうして魚を食べないんですか。」

S「嫌いです。」は×。

「嫌いなんです。」を導く。



い形容詞・な形容詞・名詞も「普通形」に「～んです」を付ければよいが、な形容詞と名詞の現在形だけは例外で「～なんです」になることによく注意させる。

練習は始めにい形容詞・な形容詞・名詞の語彙単位の変換練習を行う。次に「ど

うして」を用いて理由を尋ねる質問文を作る練習をする。そのあと答え方の練習をする。このとき病気表現を多く使うと理解させやすい。それから「～んです」を用いたQA練習を行う。

③の導入

日常生活の行動を聞いて、その行動をとらない理由の説明を補足させて導入する。

T「きのうの晩テレビを見ましたか。」

S「いいえ、見ませんでした。」

T「どうして見なかったんですか。」

S「時間がなかったんです。」

Sの答え二つを結合して

「いいえ、見ませんでした。時間がなかったんです。」を導く。

確認のため、他の質問をして次のように答えられれば、練習に移る。

T「今晚どこか行きますか。」

S「いいえ、行きません。宿題がたくさんあるんです。」

2. 道がわからないんですが、教えてくださいませんか

[指導内容]

ほかの人に何かを依頼するときに、依頼する経緯、状況を説明するために、前置きとして用いられる「～んですが」の用法を教える。後件には依頼のほか、勧誘、許可などの表現もよく用いられるが、ここでは相手の意向を伺う形をとったより丁寧な依頼表現の「～てくださいませんか」を中心に教える。

[導入例]

知らない人や目上の人などに何かを依頼する場面を設定する。

T「ワープロの使い方がわかりません。

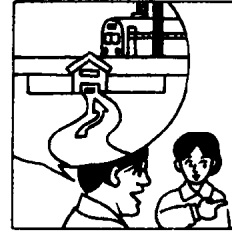
会社の人に何と言って教えてもらいますか。」

S「ワープロの使い方を教えてください。」から

T「ワープロの使い方がわからないんですが、
教えてくださいませんか。」を導く。



T 「一人で東京へ行きました。センターへ帰りたいですが、駅へ行く道がわかりません。日本人に何と聞きますか。」



S 「駅へ行く道がわからないんですが、教えてくださいませんか。」または
「駅へ行きたいんですが、道を教えてくださいませんか。」

このように言えればよい。

「～んですが」の役割、「が」は文をつなぐだけであること、「～てくださいませんか」は「～てください」より丁寧な依頼の表現であることを説明したあと、練習に移る。

最初に「道を教えてください→道を教えてくださいませんか。」のように依頼文だけの作り方を練習、そのあと2文を「～んですが、～てくださいませんか」の形に結合させる練習を行う。

3. 東京タワーへ行きたいんですが、どうやって行ったらいいですか

[指導内容]

「～たらいいですか」は話し手がなすべきこと、したほうがいいことについて、聞き手に助言や指示を求める表現である。「疑問詞～たらいいですか」の質問の形を中心に教える。

[導入例]

学習者に行きたい場所を尋ねる。

T 「暇だったら、どこへ行きたいですか。」

S 「東京タワーへ行きたいです。」

T 「東京タワーまでどうやって行きますか。」

S 「よくわかりません。」

T 「わたしはよく知っていますから、聞いてください。」

S 「東京タワーへ行きたいんですが、どうやって行きますか。」から、

「東京タワーへ行きたいんですが、どうやって行ったらいいですか。」を導く。

ほかの人にアドバイスを求めるときは、「行きます」を「行ったら」にして「い

いですか」を付けることを説明する。

T「東京タワーへ行くとき、何で行きますか。」

S「わかりません。何で行ったらいいですか。」

T「地下鉄で行きます。どこの駅で降りますか。」

S「わかりません。どこで降りたらいいですか。」



このように言えたら、練習に移る。練習はまず

「どうやって行きますか→どうやって行ったらいいですか。」

のように「疑問詞～たらいいですか」の変換練習を行う。

そのあと、「東京タワーへ行きたいです、どうやって行きますか」を「～んですが、～たらいいですか」の文に直す練習をする。答えは必ずしも「～たらいいです」を用いる必要はないので、適切な答えが出るように指導する。

[指導留意点]

- (1) 「～んです」の意味は学習者の母語に直接表れないこともあり、理解が難しい。この課ではまず基本的な意味・用法を理解させることを目標とする。「～んです」は非常によく使われるので、この課以降、必要に応じて積極的に使って慣れさせる。
- (2) 「～んです」の作り方は第20課の普通形がよくできていればあまり難しくない。な形容詞・名詞の現在形が「～なんです」になるところを「な」を落とす間違いが多いので注意する。
- (3) 「どうして食べないんですか。」に対して「おなかが痛いんですから。」のようにする間違いが多いので注意する。
- (4) 「～んです」を習うと、事実を述べることに「～んです」を用いておかしい文を作ってしまう。問題7（本冊p.11）のように「～んです」を用いるものと用いないものを選択させる練習をするとよい。
- (5) 話し言葉での用法を教えるため、書き言葉に多い「～のです」の言い方は扱わない。
- (6) 依頼の前置きの「～んですが」の「が」は「でも」「けれども」の意味ではなく、文を軽くつなぐために使われており、ためらいや遠慮を示すことを理解させる。

状況が聞き手にとって明らかな場合は「～んですが」の後件が省略され、言いさした形になる。この形はこの課の会話に提出されているが、会話に入るまでは省略しない形を中心に練習を行う。

★発展指導

- (1) 下のような絵を見せて、「～んですか」を用いて、相手との話のきっかけを作り、自分と相手との共通話題に入っていく会話の練習をさせる。

例：

A: 何を聞いているんですか。

B: マドンナの歌です。

A: はくもマドンナが好き
なんですよ。

それ、聞いたら、はく
にも貸してください。

B: ええ、いいですよ。



- (2) 自分の行きたい所までどうやって行くか、所要時間などを実際に日本人に質問させる。そのときの会話を再現したものを書かせる。

Ⅲ 会 話

[指導目標]

初対面のときの自己紹介を始め、ほかの人の紹介ができる。また、ほかの人に指示を求めたり、不明な点を聞き出すことができる。

[場 面]

センターでの一般研修が終わってナロンは実習先の名古屋に赴く。寮の管理人渡辺との対面のあと、渡辺に寮の中を案内してもらう。

[指導項目]

- (1) 「こちらは【管理人さん】です」…ほかの人を紹介するときの表現。「こちら」は人を指す丁寧な言葉。「わたしは～です」「こちらは～さんです」と紹介をさせて理解させる。
- (2) 「お世話になります」…これから世話になる相手に対して付き合いが始まるときに使う挨拶。センターを出るときの「いろいろお世話になりました」(第